令和６年度作成
（試験実施：令和６年度）

水稲栽培における側条施肥及び元肥一発肥料を活用した省力･低コスト技術の実証

農場の概要
・秩父市太田地区　　・水稲

導入した資材等
・側条施肥田植機＋たい肥入り水稲一発肥料

導入の目的・ねらい
「たい肥入り水稲肥料」を側条施肥田植機により元肥１発で約２割の減肥と省力化の実証をした。

試験概要
・面積　試験区：３０a　　対照区：３０a
・施用量（N成分）
　基肥　　試験区：6kg/10a　対照区：6.0kg/10a
　追肥　　試験区：0kg/10a　対照区：1.4kg/10a
　計　　試験区：6kg/10a　対照区：7.4kg/10a
・主な管理作業
播種：4月22日、田植：5月22日、中干：7月11日～
追肥：7月18日、出穂：7月28日、収穫：9月6日
病害虫防除：7月10日（空散①）、8月9日（空散②）

結果概要

稈長　試験区：76.82cm　対照区：81.92cm
穂長　試験区：24.64cm　対照区：23.56cm
穂数　試験区：402.6本/㎡　対照区：364.1本/㎡
精玄米収量　試験区：624kg/10a　対照区：639kg/10a

実証区と対照区では生育期間中の草丈、茎数などに大きな差はみられなかった。
生育期間中は高温傾向が続き、出穂日の予測が大幅に前進し、結果的に対照区の追肥がやや遅れてしまった。
側条施肥田植機の特徴として田植えの時に苗の補給のほかに肥料の補給も行うこととなり、補助員の負担が増すことになった。
収穫期については、登熟積算温度が1000℃を超えても茎葉の黄化は緩慢だったが、昨年よりも10日以上早く収穫した。
収量は対照区とほぼ同程度であった。また、令和5年度の実証ほの収量（598kg/10a）と比べてもほぼ同程度であった。
労働費については実証区の田植時の肥料補給の時間を「田植」に入れたため、実証区の田植時間が多くなり、一方「施肥」時間はゼロとした。全体としては対照区に比べ97%となった。
資材費については実証区の資材が昨年よりも安くなったこともあり、対照区に比べ88%となった。

生産者コメント

側条田植機は最初に肥料の吐出量の調整を行わなければならず、この作業は習熟する必要がある。肥料を減らしても収量は劣らず、減肥の効果があった

問合せ先
秩父農林振興センター農業支援部 技術普及担当 電話:0494(25)1310
秩父農林振興センター管理部　　地域支援担当 電話:0494(24)7211